

ときどき、目まぐるしい日々が続くと、ふりかえる間もなく、自分が何をしているかもよくわからない、そんな状況の自分に失笑します。自分は世俗にどっぷりつきり、仏縁からどんどん遠ざかっているとさえ思えてきます。

一方、世間では次から次に新しい事件や災害がおこり、大きな衝撃をもたらした出来事も時間とともに、日々に埋もれ、人々の記憶から薄れがちになります。人間とは非常に勝手なものだと、小さな自分の身の回りの問題から、大きな世界をゆるがす問題まで、世の中の歪みを感じ、人々が向かっていく方向に疑問と恐れを感じる、むなしさを感じるこういう時、お念仏の教えをどうひもとけばいいのか、気になります。答えなどでないで、また日常に埋没していくのですが。大概の人が、日常生活に追われ、立ち止まることなどなかなかありません。自分もそのひとりです。

ある子育て真っ盛りの、三人の子どもをもつ若いお母さんが、家族でうちに遊びに来たときのことです。真宗とは無縁の方ですが、掛っていた日めくり法語を見て、「これなあに？」と手に取って目を通し、「これって、世間でよく出回っている人気のことば集なんかより、よっぽどいいね」といわれました。同じものを一冊さしあげたところ、喜んで帰られました。年配の方ならまだしも、若い人だと宗教的のものは怪しんだり毛嫌いしたりするいかにも現代っ子が、こういうものにピンと来たりするとは、不思議な気持ちでした。でも、これが、ひとつの仏法に触れる瞬間なのではと感じた出来事でもありました。

また、最近の人気実力歌手の歌詞の中に「人は皆生きているんじゃなく生かされている」というフレーズが出てきて、少し驚きました。若いアーティストでも、この言葉に気に留める人もいるのだって。

目まぐるしい日常の中で、「それでいいのか」と自分自身に問いかえずそのきっかけが、真宗門徒として仏法に触れているだけで、他より多少なりともあるのかもしれませんが、そのことさえ気づかない自分がいます。